

6月11日（土）1限目「食と薬～食べ物と薬の境界～」

担当教員：薬学部 医療薬学科

懸川友人 教授

100年ほど前までは食べ物のすべてが薬であったという、びっくりするようなお話から講義が始まりました。どのように区別されるようになったのか、現在の薬と食品の相互作用、身近な山の中や観光で有名な島の土の中からも薬の成分となる細菌が発見されたことなど、わかりやすく説明していただきました。

身近な植物の中には、実はとても危険な植物も多く、注意しながら見ていると意外と見つけれられるそうです。

薬の意外な一面が学べた講義となりました。

